

一六 指紙面並寺社方修覆物之儀覺

一、御年寄衆・御近習頭より呼に參候へば、罷出候事。
 一、寺社方御用之御修覆物、神主・寺方役者等願紙面、御添印を受、寺社奉行一名之印形有之添紙面を以到來、是も少請、返事相調判形仕遣候事。且又寺社方取次與力致持參候へ者、添紙面無之候而茂請取候事。

一七 言上紙面品々覺

一、江戸より便に同役言上紙面到來候節、早速御次に致持參、頭中を以上之申候。右江戸より添紙面之端に、何月何日到來に付、誰を以上之申候旨相調、御用番之名判仕、右之箱に入封付、便に相達候事。
 一、金澤に而同役より言上之紙面は、別帳之通相調上之申事。

一、不依何時、金銀何程御用に候條可請取旨、御年寄衆・御用人・御次頭中より申來候へば、小拂奉行申遣、假切手を用

以受取、夫々相渡、請取切手取候事。

但、追而言上仕候文言等、別帳に有之候。御年寄衆・御家老衆・若年寄衆・御近習頭・御用人は、金銀諸色申談次第、直に茂相渡候事に候。此外御役人に者、右衆中より指紙面を取申事。

言上紙面調様。

覺

一、何十兩

金小判

一、何百目

丁銀

右御用に候條可請取旨、何の誰小拂奉行に申達候間、何月何日相渡申候に付、奉達御聽候。以上。

エト月 日

誰	判
同	判
同	判
同	判

右半切紙面、封目御用番印。但し、右之外吳服類に而も言上仕候事。

一八 諸役人判・印鑑之儀覺

一、諸頭諸役人中等役儀被仰付、又は役替等に而判・印鑑到來之節者、同役并支配頭等之内より添紙面を以到來之筈。尤請取にも此方判形仕候。一人役之頭分は、其身より指出申事。京都・大坂詰人等は、直に會所に致持參候而指出申事。

但、判・印之内改候へ者、其身より直に受取申候。判・印共改候へば、頭より最初之通添紙面に而到來候筈也。

一、横山長太夫奏者役被仰付候砌、自分之添紙面に而判・印鑑被指越、受取置候事。

但、此並之衆は、自分之添紙面に而も受取置候事。

一九 火事之節之儀覺

一、火事之節、一統登城有之程之火事に候はゞ、會所に罷出申筈に候。併御用番は、遠火に而茂様子次第罷出居申儀に候。薪藏・木新保御畑危候得ば、御用番之外之者罷越候筈之事。

一、御旅所等會所足輕等之火事羽織は無之事。先年卯辰火事之節、遠田勘右衛門急御用に候間、火事羽織御有物指出候様にと申來候得共、御有物無之旨申入候事。

二〇 吳服・料紙等役所之儀覺

一、御服所に切拂構無之、一反と打込切は會所に^(吳)出置候事。但、疊縁布は御服所預りに而、古物裁許請拂仕候。伐取候口に、會所印封仕候。

一、御料紙所には、御料紙品々・筆・墨・廣蓋・水引・鏝・蠟燭・御繩・大緒・金銀箔・紫革、其外白皮等・木綿類・唐木綿之類、請拂有之事。

但、唐木綿、申正月始而御仕着御用に而京都より取寄候に付、可相渡旨申達候所、終に不受取候間、難受取旨申聞候得共、唐木綿も常之木綿同事に候間、決而可被受取儀と申達候へ者、追而承知候旨に而相渡候事。

一、唐木綿之見本は、切に場印押候而遣、旅道具裁許與力の相渡置候事。但、京都に唐もめん申遣候度毎、右見本受取可遣候事。